

水資源・環境学会 2025 年度研究大会
報告要旨

【招待報告】

① 現代日本で水をブリコラージュできるかー山梨や奥能登での小さな水の試み

報告者：西田継（山梨大学国際流域環境研究センター・大学院総合研究部生命環境学域教授）

我が国では、高度経済成長とともに急速に公的な上下水インフラの整備が進んできた。それから 50 年が過ぎ、私たちは着実に、水というコモンズの大量消費を定着させてきた。同時に、その発生源と流出先への意識と関与を手放してきたと見ることもできる。14 年前の東日本大震災。そして、昨年、能登半島地震。社会構造を見直す機会が頻りに訪れるに従い、都市域の公共上下水道に代表される大きな水システムと、地方にふさわしい自営の小さな水システムが共存する世の中とはどのようなものか。多くの人が関心を寄せ意見を交わすようになっている（小さな水の他にも、近い水、すいまーる、などなど）。防減災、フェーズフリー、多元給排水、自助・公助・共助、オフグリッド、市民科学、そして水文化。これまでの研究教育活動を通して得られた経験を参加者と共有することで、新たな気づきやより深い洞察が生まれればうれしい。

【講師プロフィール】

1997 年東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了。博士(工学)。現在まで山梨大学で勤務。2003-2004 年連合王国ウェールズ大学客員研究員、2019-2023 年山梨大学国際流域環境研究センター長。

合成化学、光化学、人類学的水文学、環境民俗学。国内外の林地、農地、都市、村落でフィールドワークを行う。栄養元素フロー、地下水汚染、水系感染症、地域格差などの解析を経て、近年ではコモンズのガバナンスと心理、相互扶助、多様性と包摂性などにも関心を持つ。2024 年の能登半島地震以降、分散給排水システムの実装を本格化。(社)小さな水 代表、地域資源ラボ連絡会 世話人、山環塾 塾長、すいどう塾 塾頭、地下水適正管理協議会 特別会員、内閣官房 水循環アドバイザー。